

## JASTAの資料取扱いについてお願い

日頃より弊協会の活動にご理解を賜りありがとうございます。

皆さまのご活躍に注目が集まり、それぞれにメディアの取材やイベントや講演会のお声がかかる機会が増えてきているようで喜ばしいことです。せっかく立位テニスを取り扱って頂ける機会をより効果的に生かすために、正しい情報発信をしたいと思い、基本的なルールを作りましたので、よろしくお願いたします。

### <取材、イベント、講演会等のご依頼があった場合>

1. JASTAの選手或いは支部などグループとしてお話しが来た場合

依頼があった段階で本部にご報告ください。内容に応じて必要な情報やJASTA発行の資料や名刺を本部からご提供いたしますので、大いにご活用ください。

2. 個人或いは他の団体としてお請けになられた場合

ご本人やその団体の活動についてお話しされることですので、必ずしも本部へのご報告は必要ありません。もしも依頼元からJASTAについての情報提供や資料の提供を求められた場合は、お手数ですが、本部に直接お申し出くださるようにお伝えください。本部が責任を持って対応し、必要である場合は本部から直接ご提供します。個人の活動や他の団体活動とJASTAの活動を混同されることはおやめください。お手持ちであっても、断りなく直接JASTAの資料を配布されないようお願いいたします。

### <JASTA発行の資料（チラシなど）の配布をご希望される場合>

JASTAの会員の方が、弊協会の活動を広報されたい場合、本部にお申し出頂ければ、JASTA発行の広報用資料をお渡しすることができます。本部に問い合わせがあったときの為に、どこへ配布されたかご報告ください。

### <この対応をお願いする理由>

障がい者が立って行うパラテニスの立位テニスには、大きく分けて交流型の福祉的な意味合いのものと、JASTAが目指す競技としてのものがあります。その違いを意識せずに情報発信してしまうと、世の中に間違ったイメージが定着してしまうリスクがあります。それを避けたいのです。

交流型の福祉的な立位テニスは、1980年代からずっと行われてきており、東日本地区ではニューミックスの大会が各地で開催されるほど認知されています。40年もの歴史があり、日本女子テニス連盟はじめ、理解者も多く、支援も得やすくなっています。交流が目的ですから、ゲームをする場合も、フェアであるかどうかはそんなに重要ではありません。ゲームもローカルルールで行っても構わないのです。障がいの種類や有無に拘らず、いろいろな方と分け隔てなく交流できることが優先されてきました。

それに対し、JASTAが普及発展を目指すのが、これまでありそうで無かった競技色に特化した立位テニスです。競技として腕前を競う以上、フェアな条件であることが重要です。競技対象者も、手や足や体幹に障がいを持つ方に限定しています。公平性を保つため、障がいの度合い別にカテゴリーを分け、カテゴリーによってはコートサイズや使用球をITF推奨のPlay&Stayのルールを適用しています。国際大会も開催される

ので、競技ルールも統一したものが求められます。世界的にも、このムーブメントは2013年頃からと大変歴史も浅いです。

このように、同じ「立位テニス」であっても、この二つは大きく方向性が異なります。スポーツに限らず、どんなものでも、趣味やレジャーのように楽しむために行うものと、職人さんやプロが突き詰めて行うものがあるのと同じです。どちらにも価値があり、そこに優劣はありません。また、どちらの領域も行き来する方がいる事も承知しています。（現に、JASTA代表理事の柴谷は、交流福祉型の立位テニス任意団体にも籍をおき、その理事もしております。）交流福祉型の立位テニスと競技としての立位テニスを両方楽しんだり、立位テニスと車いすテニスのどちらかではなく、両方で活躍する方が出てくれることもJASTAは歓迎しています。

本部にご報告いただきたいと申し上げるのは、本部に問い合わせが来た際に、本部が話を聞いていないと適切な対応を取ることができず、ご迷惑をおかけしてしまうからです。

JASTAでは、活動趣旨を曖昧にしないため、打ち出すメッセージは「競技」一本に限っています。今は認知を上げていく大事な時期にあります。情報の出元を一本化して、JASTAの目指す競技としての立位テニスを大切に育てていきたいと考えています。どうぞ、二つの違いをよくご理解頂き、正しい情報が発信されるよう、ご協力をお願いいたします。

一般社団法人 日本障がい者立位テニス協会  
代表理事 柴谷 健